

第二章 将来への提言

サクアルパン地域には、Pb、Zn を主とした塊状硫化物鉱床と鉱脈型鉱床が存在する。塊状硫化物型鉱床はレイデプラタ鉱床に類似の特徴を有する。これらはサクアルパン地域の中でも中央部のアウロラ地域に分布し、マント・リコ鉱床～アウロラ鉱床～クルス・ブランカ（Cruz Blanca）鉱床まで点在し、ビジャアヤラ層上部の火山活動休止期に堆積岩と共に生成されている。しかし本地域ではこのタイプの鉱床はまとまった鉱体を形成していない可能性が高く、経済性の高い大規模鉱床賦存のポテンシャルは少ないと考えられた。

一方では本地区を含む広大なゲレロテレーン中にはティサパ鉱床、レイデプラタ鉱床他の塊状硫化物鉱床、鉱徴地が多く存在することが知られているが、詳細な地質調査が行われていない未探鉱地域が多く、潜頭性の鉱床の存在する可能性は高い。本調査で明らかとなったビジャアヤラ層火山活動と鉱化作用の関係（鉱床層準の概念）がゲレロテレーン中の塊状硫化物型鉱床の探鉱に普遍的に適用出来る可能性がある。したがってこのような観点から、将来ゲレロテレーンの地質の再検討を行うことにより、多くの鉱床賦存ポテンシャルの高い地域が抽出される可能性が高いと考えられる。

Zn、Ag、Pb を主とした鉱脈型鉱床は現在もサクアルパン付近で小規模に稼行されている。類似の鉱化作用は NW-SE 系の鉱脈鉱床ゾーンに形成されており、未だ本格的探鉱の行われていない部分については、今後中小規模の高品位鉱脈が発見される可能性を残している。